

自然科学系研究助成 大幸財団が10件決定

大幸財団(名古屋市中東区)

は本年度の自然科学系学術研究助成事業で十件、総額三千九百三十万円の助成を決めた。県内の大学、研究機関の研究者から応募があった五十二件から選考した。

助成を受ける研究は次の通り(かっこ内は代表研究者)

慢性炎症における脂質会合タンパクの機能(高村祥子・愛知医科大教

授)▽東海地方の伏流水を舞台とした一種のカエルの奇妙な種分化現象に関する総合的考察(島田知彦・愛知教育大教育学部准教授)▽クリニカルプロテオミクスに基づく難治がんの革新的治療法開発(田口歩・県がんセンター分子診断IR分野長)▽昆虫侵害刺激センサーに作用する新規忌避物質の評価と感作物質による害虫防除の新戦略(曹我部隆彰・自然科学研究機構生理学研究所准教授)▽キラル分子モーター修飾ナノ粒子を利用した高スピン偏極電流の生成と外場制御(須田理行・同機構分子科学研究所助成)▽メタバーコーディング法によるニホンライチョウの餌資源解析と採餌環境評価(南基泰・中部大応用生物学部教授)▽Prdm16を介したミトコンドリア代謝によるヒト神経幹細胞の運命決定制御機構の解析(嶋田逸誠・名古屋市立大大学院医学研究科講師)▽合金凝固の数理モデルを応用した隕石(いんせき)中の急冷凝固組織形成過程の理論的解明(三浦均・同大学院システム自然科学研究科准教授)▽P-T境界付近におけるシベリア大陸の二つの火成活動―シベリアトラップと火山弧アタカイト(東田和弘・名古屋大博物館准教授)▽二面性を持つアルミニウム化学種―アルマニルアニオンを用いた異種金属間化合物の合成(山下誠・名古屋大大学院工学研究科教授)